



Title	<書評>「公衆衛生学」 ((財)大阪公衆衛生協会 編集)
Author(s)	ほけんふさん
Citation	大阪公衆衛生. 1990, 58, p. 20-20
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/83654
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

『公衆衛生学』

(財)大阪公衆衛生協会編集

この本はもともと看護学生の教科書として書かれたものである。そのため構成も学校カリキュラムにあわせて編集されており、通勤途中に電車のなかで読むにはやや難しい内容ではある。しかし、公衆衛生に従事している者が効率よく知識を整理するには良い本であり、業務の合間にページを開いてもらおうと非常にためになる本だとおもう。

内容は第1章から第13章で構成されている。各章のテーマを紹介すると「総論」「健康の指標」「ヘルス・サービスの構造」「医療保障」「感染症対策」「成人病対策」「母子保健」「精神保健」「環境保健」「食品の衛生」「学校保健」「産業保健」「健康教育」となっている。このように内容は盛りだくさんで、この本一冊で「公衆衛生とは？」が理解出来ることになる。

構成で特に気配りされていることは文章がわかりやすく（教科書といえば難しい文章が並べたてられているものだが）、例を挙げてより理解が深められるようになっている。また各章の文頭にその概要を述べており、読者が手ばやく内容を理解できる。そして、各ページの欄外にキーワードが記されており、知りたい内容が一見できるのも特徴だ。

もともと『公衆衛生』とは英語のPublic Healthを翻訳した日本語であるが、この書によると『みんなの健康をみんなで守り、向上させるための組織的な営み』と定義している。われわれ保健所で住民の健康を守る仕事に従事している者としては本書を単なる知識の整理だけでなく、自分たちの仕事の原点を見つめ直すためにも利用することを薦める。

(ほけんふさん)